

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	株式会社 ドリエジヨ ゆめさとグループホーム
(ユニット名)	しゃくなげ
所在地 (県・市町村名)	滋賀県蒲生郡日野町西大路字井上434-2
記入者名 (管理者)	富田 さつき
記入日	平成 19年 7月 1日

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念に基づく運営					
I-1. 理念と共有					
1	1	<input type="checkbox"/> ①地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所当初より、独自の理念を作り上げているが、生かすきれていない部分もある。	○	今後、理念を生かしていけるように努力していく。
2	2	<input checked="" type="checkbox"/> ②理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月一回のミーティング・日々の業務の中での話し合いは行っているが、理念が明確ではないため、個々の判断により動いている部分もある。	○	全体でのミーティングだけでなく、事業所の責任者・各部署の担当などによる小規模な会議の場を持ち、理念に基づいて職員に伝え取り組める環境を整えたい。
3		<input type="checkbox"/> ③家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	事業所に見学に来られた時に、理念・方針について説明しているが、理解されているかどうかはわからない。グループホーム自体の認識も低いようにも思われる。	○	見学や事業所の説明をするときは、具体的な理念の説明を行う。運営推進会議を通じグループホームの事を地域の方に知ってもらおう。
理念と共有 3項目中 1項目					
I-2. 地域との支え合い					
4		<input checked="" type="checkbox"/> ①隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	特に意識して取り組んでいることはないが、隣の畑の方に野菜などもらったり、気軽に挨拶などしている。	○	気軽に立ち寄りしてもらえる場になるよう努力したいが、田舎独特の考え方もあり、どのように取り組むか検討したい。
5	3	<input checked="" type="checkbox"/> ②地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の行事、地域での行事には積極的に参加している。近隣の小学校とも交流が出来ており、生徒さんの訪問、学校行事への参加などしている。	○	地域の行事への参加、同じ地域の者として受け入れていただけるように積極的に取り組んでいきたい。また、地域の他の事業所などとの交流も強くしていきたい。
6		<input checked="" type="checkbox"/> ③事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	入居者の支援については、ミーティングなどで話し合っているが、地域の高齢者への取り組みは現在行っていない。		今後、運営推進会議などを通じ地域の高齢者の状況を把握しながら、事業所の対応能力を上げ、取り組んでいければと思う。
地域とのつきあい 3項目中 3項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I-3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	<input checked="" type="checkbox"/> ①評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を各自で取り組むことで、理解は出来ていると思う。具体的な改善については、取り組めていない部分もある。対応手段を計画し、対応能力を上げていこうと取り組んでいる。	○	評価結果を今後の課題とし、取り組んでいきたい。
8	5	<input checked="" type="checkbox"/> ②運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2回開催したばかりだが、入居者さんの状況、グループホームの現状など理解してもらい、その中で参加できる行事の検討など行っている。	○	グループホームの現状、入所者さんの状況を報告する中で自治会などの認識を高め、事業所としての要望を理解・認識してもらい入居者さんに適したサービスの幅を広げたい。
9	6	<input checked="" type="checkbox"/> ③市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	部分的には連絡を取り合い、事業所の現状を理解してもらえるように努力している。	○	現状、事業所だけで対応できないこともあり、今後お互いに助け合えるような関係を作っていきたい。
10		<input type="checkbox"/> ④権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、対象となる方がいないため、実施していない。	○	今後、対象となられる方の入居も考えられるので研修、事業所内での勉強会の場を設け、学べる機会をもちたい。
11		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の業務の中で、入居者さんの様子を注意しながら確認している。職員の勤務態度など気を配り、個人的・会議等で話し合いの場を持ち、注意を心掛ける。	○	現場の職員に虐待に対する認識を高めてもらうためにも、再度研修の場を設ける。スタッフの職場での精神的なケアを十分に管理していく。
理念を実践するための制度の理解と活用 5項目中 4項目					
I-4. 理念を実践するための体制					
12		<input checked="" type="checkbox"/> ①契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に、入居者さん個人の面接・家族さんからの面接を行い、不安に思っていること、疑問に思っていることなど出来る限り対応している。契約後も、疑問に思うことなどあれば、連絡をもらえるように声かけし、対応している。	○	定期的に家族さんとの面談が必要であり、そのときに問題点や悩んでいることなど聞き配慮していく方向性を考えたい。
13		<input checked="" type="checkbox"/> ②運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言動などから、不安・不満などに気づき話し合う場を持ち、対応策を考えているが、外部へ表せるようにはなっていない。	○	入居者からの苦情に対し、速やかに対応、対策をとれる環境を整えたい。
14	7	<input checked="" type="checkbox"/> ③家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、入居担当の者が、一ヶ月の様子を身体・精神・ケア面についてまとめ、手紙として現金出納表等とともに送っている。		現状を続けながら、家族さんからの意見・疑問・要望などを送っていただけるような方法も考えていきたい。

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
15	8	<input checked="" type="checkbox"/> ④運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に気軽に不満・意見等言ってくれる家族さんがおられる。その時は、話を聞き内部だけで解決できることは職員間でミーティングなどで話し合い解決している。	○	個人情報のこともあり、外部に公表するには、同意を得る必要もあり、考慮していきたい。現在、内部だけで解決できることが多い。家族さんが、意見を出しやすい場を設けていきたい。
16		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティング、日常業務の中で意見・提案などを聞く場を設けている。意見・提案など聞く場はあるが、事業所全体として考えなければならないことなどを各部署の担当者で話し合う場が少ない。	○	現場の職員の意見をふまえ、事業所としてどのように運営していくか話し合う機会を定着させ、より良い運営が出来るように取り組みをかけている。
17		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	緊急を要する用事が入れば、その日の勤務を他の職員との連携で交代したり、他部署からの応援により対応している。		
18	9	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの職員は基本的に固定にしている。異動などに関しては、入居者に対する影響など慎重に考え対応している。	○	職員の能力により、その人にあつた場としての検討も必要になってくると思う。入居者への影響を最小限に抑えながら、問題が生じる前に人員の移動も検討していきたい。
理念を実践するための体制 7項目中 7項目					
I-5. 人材の育成と支援					
19	10	<input checked="" type="checkbox"/> ①職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成に対する計画などは立てられていないが、月一回の経営会などで話し合いを行っている。	○	職員の質の向上のための環境を整えるためにも管理者・リーダーが質を上げるための勉強・情報収集などに取り組んでいきたい。
20	11	<input checked="" type="checkbox"/> ②同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の介護サービス事業者協議会のグループホーム部会に参入していて、他事業所との情報交換や勉強会などに参加している。	○	今年度は、グループホーム部会の役員をすることになっており、積極的に他の事業所へ呼びかけ勉強する機会や情報交換をする場を持ち交流を深めていきたい。
21		<input checked="" type="checkbox"/> ③職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	面談などを行い、職員一人ひとりとゆっくり話す場を設け、個々の思いを把握するようにしている。	○	親睦会での職員同士楽しめる場を増やす。他の事業所との交流の場を持つ。働く環境を整えることで、少しでもストレスが軽減すればと思う。
22		<input checked="" type="checkbox"/> ④向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年2回の査定を行い、職員の評価を行っている。		
人材の育成と支援 4項目中 4項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
II-1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		<input checked="" type="checkbox"/> ①初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に面談を行い、本人の生活状況など把握している。希望により、お試し入居を体験してもらい不安を解消してもらえるようにしている。		
24		<input checked="" type="checkbox"/> ②初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談で、家族さんと話をする機会をもち、不安・要望など家族さんが求めていることを聞き、事業所としてどのように対応できるか話し合っている。	○	定期的に家族さんと話をする機会をもち、現状の理解、要望などに対する事業所としての対応など検討できるようにしたい。
25		<input checked="" type="checkbox"/> ③初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスの利用などは行っていないが、家族さんとの相談に応じ、事業所内で対応できることは実施している。	○	看護師を採用予定であり、今後提供できるサービスの幅を広げていきたい。
26	12	<input checked="" type="checkbox"/> ④馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に本人の情報収集をおこない把握し、サービス内容など家族さんと相談し	○	本人や家族の希望が実際に行えるか、専門医受診など行い適切な判断・意見をいただけるように考える。入居希望の方に見学等促し、安心してサービスを受けていただけるように支援していく(本人の状況により)
相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 4項目中 4項目					
II-2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	<input checked="" type="checkbox"/> ①本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	個人差はあるが、日々の生活のなかで協働し合えるように取り組んでいる。	○	職員に支えあう関係という者を理解してもらえるような場面を提供していきたい。職員の個人差が出来ないように相談・決定・実施を確実に進行。
28		<input checked="" type="checkbox"/> ②本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者本人の現状を伝え、家族の方にも協力して頂けるように促している。(受診や付き添い、本人との関わりの時間を持ってもらえるように)	○	定期的に本人と関わる時間を作ってもらえるように促し、現状の本人の身体・精神状況を理解してもらいたい。
29		<input checked="" type="checkbox"/> ③本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居時・面会時など機会が設けられたときに、家族との関係や現在の家族の方の状況をできる範囲聞くようにしていきたい。	○	入居者の方の現状を明確にし、家族に伝え理解してもらった上で、現状での新しい関係を作ってもらえるように働きかけたい。

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30		<input checked="" type="checkbox"/> ④馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れな いよう、支援に努めている	家族の方には、入居されたときに入居されたことを本人と 関係の深かった方に伝えてもらえるように促し、面会など 気軽に来て頂けるように声をかけている。定期的に、馴染 みの場所や、行事には参加していただいている。		
31		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関 わり合い、支え合えるように努めている	気の合う人、会わない人もあり、日常的なこ と・行事への参加・外食などには、関係を考慮 して上で参加などしてもらえるように検討して いる。	○	共感し合えるものを事業所側から提供する ことで、今までの関係とは違う新たな関係 を作り、より良い関係を持ってもらえるよう 考えていきたい。
32		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者 や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後、家族の方が困らないように、本 人・家族さんの要望にそった次のサービスを 出来る限り提供できるようにしている。	○	契約終了後、家族の方からの相談などあ れば、積極的に相談に応じられるように、 事業所の窓口をしっかりとっておきたい。
新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 6項目中 6項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
Ⅲ-1. 一人ひとりの把握					
33	14	<input checked="" type="checkbox"/> ①思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、本人・家族の方から希望や意向など確認している。又、日々の関わりの中から、本人の思いなど把握できるようにしている。困難な方に対しても、様々な働きかけをし、本人が望まれることを提供できるよう努力している。	○	入居者の方の状況の変化により、サービス内容の再検討。
34		<input checked="" type="checkbox"/> ②これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人又は家族の方より、わかる範囲で情報を得るようにしている。		
35		<input checked="" type="checkbox"/> ③暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	現状(共同生活の中での)本人の日々の過ごし方・身体状況などは、介護記録・ケース記録なども利用しながら把握している。月一回のミーティングにより、修正・改善など心掛けている。	○	専門医や理学療法士などからのより良い判断を受けた上での把握をしていきたい。
一人ひとりの把握 3項目中 3項目					
Ⅲ-2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	<input checked="" type="checkbox"/> ①チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	生活歴など考慮して上での介護計画を試みていたが、介護レベル・状態の悪化により、反映できなくなっている部分もある。職員間でミーティングなどで話あっているが、家族の方の意見など取り入れられていない部分もある。	○	これからのことを考慮した上での介護計画の作成、日常生活の中で本人の思いなど聞き取り、介護計画に反映させる。家族の方の意見・要望も取り入れた上で介護計画を立てていきたい。
37	16	<input type="checkbox"/> ②現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状の変化については、ミーティング・日々の業務の中で話し合いは行っているが、計画の見直しが行えていない。	○	状態の変化に生じ、介護計画の変更・計画書の変更を行っていく。
38		<input checked="" type="checkbox"/> ③個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録などに日常の変化・気づきなど記録し、情報の共有を行っている。		
介護計画の作成と見直し 3項目中 2項目					
Ⅲ-3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	<input checked="" type="checkbox"/> ①事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医師の往診などにより、現在出来る範囲では対応している。	○	今後、看護師の採用、職員の質の向上により事業所としても質を向上させ、柔軟に対応できるようにしていきたい。
多機能性を活かした柔軟な支援 1項目中 1項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		Ⅲ-4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40		<input checked="" type="checkbox"/> ①地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の意向に対しての対応はしていないが、運営推進会議などの開催により、地域の方々と協力しながら、支援していけるようにしていきたい。	○	入居者の方が、今後どのようなふれあいを求めているか検討していきたい。
41		<input type="checkbox"/> ②他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在、他のサービスの利用は行っていない。	○	地域の事業所などとの連携を図るためにも他の事業所との連絡を取り合える関係を作り、サービスの提供に繋げていければと思う。
42		<input checked="" type="checkbox"/> ③地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、権利擁護を利用していることはない。運営推進会議に包括支援センターの方に参加していただいているため、以前より現状の様子など理解してもらえようになったと思う。	○	今後、必要となる可能性もあり、包括支援センターの方との関係、連絡を密にし協力を得られる関係づくりをし、協力体制をとっていく。
43	18	<input checked="" type="checkbox"/> ④かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、本人・家族さんの希望を聞き、今までのかかりつけ医を希望される場合は、継続し受診していただいている。そうでない方は、事業所の協力医により、月一回の往診を受けていただいている。	○	受診時、家族の方では現状の様子がわからないことがあり、受診内容の用紙を活用し、適切な受診が出来るように心掛けている。今後、定期的に職員も付き添い、家族の方・職員で現状の把握が出来るようにしたい。
44		<input type="checkbox"/> ⑤認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	個人的に受診されている方はおられるが、専門医との関係は密ではない。	○	専門医への受診に定期的に職員も付き添い、今後、関係を築いていきたい。
45		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	現在、併設されているデいの看護師に気になることなど相談している。	○	今後、グループホームにも看護師を常勤してもらい、デいの看護師と協力をしながら、医療的な面に対しての対応能力の向上を目指していきたい。
46		<input checked="" type="checkbox"/> ⑦早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された場合、職員が病院にお見舞いに行き、家族さん・病院関係者から様子を聞き、状況の把握し情報交換を行っている。		
47	19	<input type="checkbox"/> ⑧重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今までは、対応が遅かった。家族さんとの話し合い、今後の方向性・家族さんの要望などじっくりと話し合う場が持ていなかったことが多かった。	○	早期対応を心掛ける。家族の方との話し合いの場を設け、本人・家族の方の状況・希望を考慮して上で最善を尽くせるよう心掛ける。状況説明⇒家族の方の理解・意志⇒計画⇒状況・希望に合ったサービスの提供

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48		<input checked="" type="checkbox"/> ⑨重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所内で対応できること・出来ないことの見極めは行っている。家族さんに現状は伝えてはいるが、詳しい話し合いまでは、行えていない。今後、対応能力を上げるための取り組みを行っている。事業所内で、今後の変化に備えての準備・検討は行っている。	○	今後、医療的なサービスを必要とされる方も増えてくることも予想されるため、準備・検討し対応の幅を広げるためにも医療系・他の事業所へのアプローチを心がけ、協力してもらえような期間の確保・協力体制を築いていきたい。
49		<input checked="" type="checkbox"/> ⑩住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居時・退去時に出来る限り情報交換し、話し合いは行っている。		
地域資源との協働 10項目中 7項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
IV-1. その人らしい暮らしの支援					
IV-1. (1) 一人ひとりの尊重					
50	20	<input checked="" type="checkbox"/> ①プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしている	個人記録・情報については、他者の目に付かないところに置くよう配慮している。言葉かけなどについては、職員の認識の違いもあり、しっかりとした対応が来ているが明確ではない。	○	プライバシーについて、学ぶ機会を設け、介護に携わる者として認識を高める必要がある。
51		<input checked="" type="checkbox"/> ②利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	出来る限り、努力はしているが自己決定や表現が困難な方に対しては、職員の個人差が見られる。衛星面に力を入れることにより、自己決定が無効化されることもある。	○	事業所内での方向性を明確にし、その上で自己決定は出来るだけ尊重し、尊重しやすいうように、業務の見直し・改善を行っていききたい。
52	21	<input checked="" type="checkbox"/> ③日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員により、個人差は出ている。一人一人の過ごし方など、希望も考慮しながら計画しているが、職員間での統一が出来ていない。	○	事業所内での方向性を明確にし、職員間に浸透させ、職員本位にならないよう方向性を十分理解してもらう。このことで、個別のケアを提供できる幅も豊富になると思う。
その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重 3項目中 3項目					
IV-1. (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		<input checked="" type="checkbox"/> ①身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望のある方は、希望の美容室など利用していただいている。服装・化粧なども本人の好まれる物を着ていただいております、個性があると思う。		
54	22	<input checked="" type="checkbox"/> ②食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の個人差はあるが、出来る限り買い物・食事準備・盛り付けなど一緒にしていただいている。メニューなどは、担当の者で決めており、入居者の意見は炉入れられていないが、季節感のある食事を提供している。	○	現在、業務に追われており、入居者さんと楽しみながら食事準備をするということは出来ない。食事準備を入居者さんと楽しみながら行えるように、業務・環境の見直しを行っていききたい。
55		<input type="checkbox"/> ③本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	日常的にはあまりできていない。外出・外食時など本人の好まれる物を選んでもらっている。	○	業務に追われ、嗜好にあったものの提供という点では少し遠ざかっている所があり、業務の見直しなど行い関わる時間を増やしたい。
56		<input checked="" type="checkbox"/> ④気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を利用し、排泄パターン・本人の癖・習慣など把握し、ミーティング時に話し合い最も適した排泄介助を心掛けている。	○	本人に対し、より良い排泄状況を作るため、職員間の個人差をなくすためにも排泄ケアの必要性・重要性を全職員が理解する必要がある。排泄ケアに関する研修への参加・勉強会の実施など必要と思われる。
57	23	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、毎日入浴を希望される方には、毎日入ってもらえるように心掛けている。時間に関しては、職員のシフトが決まっており、その時間内に入浴していただいている。	○	業務内容・時間など変更しない限り、現在のような決まった時間内での入浴となってしまふ。入る時間に関わらず、入浴することの楽しみを見つけていきたい。

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	基本的に寝る時間は決めておらず、好きな時間に寝ていただいている。ただ、おきていてもすることが(してもらおうことが)ないということもある。	○	就寝前に個別に提供できるケアについて検討していく。
その人らしい暮らしの支援 (2)基本的な生活の支援 6項目中 5項目					
IV-1. (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	<input checked="" type="checkbox"/> ①役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の希望があれば好みの仕事、役割などしていただいているが、現状受身的な方が多く、その人に出来ること、得意とされることを提供できる場面を作るように考えている。事業所の設備・職員の配置的にも出来ることが限られてくる。	○	職員の配置の見直しを考慮し、今でも様々なことを提供しているが、好みに合わない方もおられるため、提供できるものの幅を広げていきたい。個別として、楽しめる物・好まれる物を増やしていきたい。
60		<input checked="" type="checkbox"/> ②お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことの大切さは理解しているが、現状お金を管理、使うことの出来る人がほとんどおられない。又、活用する場面も少なく、本人の身体的状況・家族の方の状況を考えても現在の状況を続けていきたい。		お金を持つことで(小銭)落ち着かれる方は、居室に小銭を持っておられる。
61	25	<input checked="" type="checkbox"/> ③日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人一人の希望されるときに外出できれば良いと思うが、現在一人で外出できる方がおられない。職員の配置的にも難しい面もある。本人の希望があれば、日程を調節し、希望のない方は(受身的な方)、行事を計画し好みを考慮しながら参加していただいている。	○	本人の希望を聞き、家族さんに相談し、希望に添えるように協力をしていたできるように働きかけていく。
62		<input checked="" type="checkbox"/> ④普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	同上	○	同上
63		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	入居者さんからの希望も以前に比べ減っている。季節的に年賀状・暑中見舞いなど家族の方・知り合いに出してもらえようように声かけは行っているが、自ら出したいと言われる方は少ない。電話に関しても、家族の方の理解を得た上で要望があればかけていただいている。	○	入居者さんからではなく、家族の方から手紙などいただけるような取り組みの機会も検討していきたい。
64		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来てもらえるように声はかけているが、来られる家族の方は少ない。家族の方などが来られた場合は、居室・食堂など思い思いの場所で過ごされている。		
その人らしい暮らしの支援 (3)社会的な生活の支援 6項目中 項目					
IV-1. (4) 安心と安全を支える支援					
65		<input checked="" type="checkbox"/> ①身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束のないケアについての取り組み事態は行っていないが、目立った拘束は行われていない。拘束について、全ての職員が正しく理解できているかは明確ではなく、言葉かけなど注意する必要がある。	○	初心に戻り、拘束について正しい理解が出来るように、研修の場を設け現場で取り組んでいきたい。

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	26	<input type="checkbox"/> ②鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的には、鍵をかけないようにしているが、職員の人員・入居者さんの状況によりやもえず鍵をかけている場合もある。外に出られた場合でも、地域の方に協力していただけるように促しは行っている。	○	今後入居される可能性のある方のなかにも、徘徊、外出願望の強い方が多くなることも予想され、現在入居されている外出願望・帰宅願望の強い方のためにも敷地内で自由に動いていただけるようにする。
67		<input checked="" type="checkbox"/> ③利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人の状況により、プライバシーの配慮ができない事もあるが、基本的には配慮し把握している。職員同士も声かけを行っている。		
68		<input checked="" type="checkbox"/> ④注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人一人の状態ではなく、職員側から見て危険と思い(事故防止のため)過剰にしてしまっていることもある。	○	一人一人の状態をふまえて上での危険性・事故の可能性を再検討し、取り組んでいく。
69		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告・ミーティングなどで、個々の状態により防止の方法を検討している。	○	職員各自の知識の向上、より良い環境を作るため、勉強できる機会の提供
70		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年に一度部分的な訓練(救命士に来ていただき、心配蘇生法の訓練など)	○	職員間、専門家を招いての定期的な研修・講習を行う。
71	27	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練などは行っているが、いざというとき動揺が見られる可能性がある。又、地域の方とのデモンストレーションができていない。	○	避難動作などの再伝達。災害時の取り組みの話し合い地域に向けての連携体制など整えていきたい。
72		<input checked="" type="checkbox"/> ⑧リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクについての説明をし、本人・家族の方の希望にそった形での出来る範囲での対応を考慮し実施している。		
その人らしい暮らしの支援 (4)安心と安全を支える支援 8項目中 7項目					
IV-1. (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		<input checked="" type="checkbox"/> ①体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェック、様子観察。日常生活の様子、排泄・入浴時細かく身体観察を行っている。発見時、不安時は他の職員・デイ看護師に相談し意見を求めている。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
74		<input type="checkbox"/> ②服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については、職員が傍につき、安全に確実に実行している。内容・副作用については、種類・量が多いため、理解は不十分だと思われる。	○	定期的な薬の説明など職員にし、薬に対する理解を深めていく必要がある。
75		<input checked="" type="checkbox"/> ③便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	メニューなど気を配り、牛乳・ヨーグルトなども定期的に提供している。レク・運動なども取り入れ出来る範囲で体を動かしてもらおう努力はしているが、下剤に頼っている部分もある。	○	便秘の原因や影響など理解を高めるために学べる場を提供
76		<input checked="" type="checkbox"/> ④口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアは行っていないが、起床時、就寝前など各入居者さんのやり方で行っている。		
77	28	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的には実施している。状態の変化に応じ、ミーティングで再検討し見直しを行っている。栄養士によるチェックは行っていないが、一部栄養士により作成されたメニューを取り入れている。		
78		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	委員会によるマニュアル作成、時期的な衛生面での強化など行っている。うがい・手洗いなど行っており、予防接種も受けている。食品の衛生的なことも気を使っている。	○	定期的に講師を招き講習を受ける必要がある。マニュアルの見直し。
79		<input checked="" type="checkbox"/> ⑦食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具の消毒は行っているが、調理台などは徹底できていない。実施しているがより強化した衛生管理が必要	○	食品管理・衛生管理について具体的に見直し、マニュアルの作成。基礎的知識の向上のため講習の提供
その人らしい暮らしの支援 (5)健康面の支援 7項目中 6項目					
IV-2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
IV-2. (1) 居心地のよい環境づくり					
80		<input type="checkbox"/> ①安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	帰宅・外出願望の強い方がおられ、安全確保のため、施錠せざるを得ない状況の場合もあるが、その都度説明、理解を得ている。	○	今後外回りの行動範囲の確保などにより、気軽に出入りできるようにしていきたい。
81	29	<input checked="" type="checkbox"/> ②居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活観や季節感が感じられるようにはしている。馴染みの物を置くなどの配慮はあまりできていないが、居心地良く過ごせるような努力はしている。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82		<input checked="" type="checkbox"/> ③共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルごとに過ごせる形になっている。和室があり、区別した空間が作れるようにはしてある。室内での行動範囲が限られているためこれ以上は困難。		
83	30	<input checked="" type="checkbox"/> ④居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室ごとに作りが違い、家具の配置など家族の方、本人が決められているため、独自性のある部屋になっている。安全面を考え、不安があれば改善を行っている。	○	現状、事業所だけで対応できないこともあり、今後お互いに助け合えるような関係を作っていきたい。連絡を取り合い、話し合う機会を増やし連携をとっていきたい。馴染みの家具といっても入居時に購入されていることが多く、今後家族さんの負担、安全面を重視した部屋を作る。設備面で考え、対応できる幅を広げたい。
84		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	実施している。個々により快適と思われる温度も違うため、ひざ掛けなど使用している。		
生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり 5項目中 4項目					
IV-2. (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		<input checked="" type="checkbox"/> ①身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレの入り口など少しでも動きやすくなるように配慮している。本来は自立目的であったが、現在見守り・介助を必要とされる方が多く、環境が変わってきている。安全面は考慮しているが、身体機能を活かすことは職員の配置状況から困難な部分もある。	○	職員の関わりの時間を増やせるように環境の見直しを検討中。デイ(併設)など活用しての環境づくりを行う。
86		<input checked="" type="checkbox"/> ②わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	見守り・声かけを行う中で、本人が出来ることをしていただく。	○	声かけ、見守りなどにより出来ることがたくさんある方もおられるので、職員側の考え方、接し方の統一により混乱・失敗を防げる部分もたくさんある。
87		<input checked="" type="checkbox"/> ③建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑・散歩・洗濯干しなど一緒に行っている。敷地自体は広く、活用可能な空間はたくさんあるが、上手く活用できていない。	○	外回りの敷地の一部を解放し、行動スペースを広げる計画。花壇などを設け外だからこそ可能な楽しみの提供を目指していく。
生活環境づくり (2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり 3項目中 3項目					

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所の番号の左横に○印をつけること)
項目		↓○印欄
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらい ○ ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ○ ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ○ ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ○ ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ○ ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ○ ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ○ ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ○ ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ○ ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所の番号の左横に○印をつけること)
		↓○印欄
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

併設のデイサービスのレク参加、グループ内の事業所の行事などに参加したり、交流を持ち、入居者さんの他者との交流の場を提供している。

評価結果整理表

個 別 表	□のチェック項目数
I 理念に基づく運営	
－1. <input type="checkbox"/> 理念と共有	1 項目/3項目
－2. <input type="checkbox"/> 地域との支え合い	3 項目/3項目
－3. <input type="checkbox"/> 理念を実践するための制度の理解と活用	4 項目/5項目
－4. <input type="checkbox"/> 理念を実践するための体制	7 項目/7項目
－5. <input type="checkbox"/> 人材の育成と支援	4 項目/4項目
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	
－1. <input type="checkbox"/> 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4 項目/4項目
－2. <input type="checkbox"/> 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6 項目/6項目
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	
－1. <input type="checkbox"/> 一人ひとりの把握	3 項目/3項目
－2. <input type="checkbox"/> 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2 項目/3項目
－3. <input type="checkbox"/> 多機能性を活かした柔軟な支援	1 項目/1項目
－4. <input type="checkbox"/> 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	7 項目/10項目
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	
IV－1. その人らしい暮らしの支援	
－1. (1) <input type="checkbox"/> 一人ひとりの尊重	3 項目/3項目
－1. (2) <input type="checkbox"/> その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援	5 項目/6項目
－1. (3) <input type="checkbox"/> その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援	6 項目/6項目
－1. (4) <input type="checkbox"/> 安心と安全を支える支援	7 項目/8項目
－1. (5) <input type="checkbox"/> その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援	6 項目/7項目
IV－2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	
－2. (1) <input type="checkbox"/> 居心地のよい環境づくり	4 項目/5項目
－2. (2) <input type="checkbox"/> 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり	3 項目/3項目

総合評価

I 理念に基づく運営 (項目/5項目)について

制度改正にともない、理念の見直しが行えていないため、今後理念の見直しを行っていく必要がある。全体を通してのミーティングのみでなく、各部署の担当による会議の機会を持ち全体を通しての方向性を明確にすることにより、より理念が理解できるように取り組んでいきたい。地域に対しても、運営推進会議などを通じて少しずつ地域の方々にグループホーム・理念について知って頂いている。

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 (項目/2項目)について

初期の、面接の段階で本人家族さんの不安・要望など聞き、事業所で対応できることなど話し合い信頼をえられるように努力している。本人・家族さんの要望・希望により、グループホームでの生活への不安を軽減するためにも、体験入居をして頂き、今後の利用について検討してもらっている。事前に、本人の状況など情報収集を行い出来るだけ馴染みやすい環境を提供できるように努力している。

III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント (項目/4項目)について

日々の生活の中で、その人らしさが出るように個々のかかわり方を持つように努力しているが、個人差もある。本人・家族の立場に立ちその人にとっての楽しみとなることなど考えている。日常のケアについては、日々の状態の変化に応じ見直しが出来ているが、介護計画書に反映されていない部分もある。本人が安心して生活できるように、地域・医療機関などと協力し、今後のケアについて話し合っている。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 (項目/7項目)について

一人一人の尊厳を大切にしていけるよう、日々の生活支援など努力している。外部との社会的なつながりを大切に、喜び・楽しみを感じていただけるように配慮している。個別のケアを充実させるためにも、環境整備など行い、対応の幅を広げるため取り組んでいる。災害時のマニュアルなど再検討し、自己・災害時の対応なども行っていく。入居者にとって、居心地の良い生活を送ってもらえるように配慮し取り組みを行っている。

V サービスの成果に関する項目について

入居者の介護レベルの悪化にともない、職員に対する負担も大きくなっている現状もあり、業務の見直し・環境を整えることにより、職員の負担の軽減を行う事により、個々へのケアの充実につながると思うため、取り組んでいきたい。運営推進会議の開催により、以前よりも地域の方にグループホームの理解をしていただけているように思う。今後、外部との交流の場を広げ、入居者の方に安心した生活を送ってもらえるようにケアしていく。

★サービスの質の向上に向けて、取り組む課題と優先順位、具体的な行動の計画

評価年月日：19年 7月 1日

前回評価年月日：18年 7月 8日

サービスの質の向上に向け取り組む課題			取り組み期間 (○年○月～ ○年○月まで)	改善に向けた具体的な行動	達成度評価	次期 評価 実施 時期
評価項目 番号	優先 順位	内 容				
I-1 (1)①		独自の理念は創りあげているが、制度改正・入居者の状況の変化により、見直しが行えていない為、見直しを行う。	19年8月～11月	月一回のミーティング・リーダー会議で今後の方向性・理念について話し合う場を持ち、見直しを行う。		
I-4 (16) ⑤		ミーティングなどで職員の意見を聞き、事業所全体として話し合いまとめ、意識の統一をし、事業所全体の質の向上に繋げたい。	19年8月～	各ユニット毎のミーティングで具体的な意見など聞き、グループホームとして考えること、事業所として考えることなど話す場を定着させる。		
II-2 (36)1		介護計画について、職員・家族の意見などを聞き、内容を共有し作成して行く。	19年8月～	介護計画について、各入居担当により見直しを行うようにし、ミーティング日々の業務の中で意見交換を行う。家族の方と話をする場を設け、要望・思いなど聞き介護計画の検討・見直しを行う。		
II-2 (37) ②		介護計画書について、状況の変化に応じて随時見直し・変更を行っていく。	19年8月～	状況の把握を行い、状況の変化に応じ見直しを行っていく。		
IV-1 (4)⑥ ⑦		緊急時・災害時のマニュアルの見直し、事業所内の訓練・研修を行い、落ち着いて行動できるようにして行く。地域との交流を深め、連携した訓練を行う。	19年8月～	各マニュアルの見直し・追加を行い、現在行っている訓練を継続しながら、専門家による講習などを取り入れていく。運営推進会議で災害時の取り組みについて説明し、意見を頂き、協力体制を作っていく。		
III-4 ⑧		重度化にともなう、状況把握、家族との連絡、説明などの場を設け、早期対応が出来るようにする。	19年8月～	家族と話し合う機会を設け、希望・思いなど聞き、事業所として何処まで対応できるか話し合う。職員の意識・質の向上のためにも研修などへの参加、業務の見直し、環境の整備を行っていく。		